

科目名	保育・教職実践演習SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論などを組み合わせながら論文の作成を行っていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自らの学びを振り返り、保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を行う。	
				○		保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。	
				○		現代の保育士、幼稚園教諭に求められるニーズを正しく理解することができる。	
				○		自らの学びを深め、論文として発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(卒業論文発表)					
	2	1日目(卒業論文発表)					
	3	1日目(卒業論文発表)					
	4	1日目(卒業論文発表)					
	5	2日目(卒業論文発表)					
	6	2日目(卒業論文発表)					
	7	2日目(卒業論文発表)					
	8	2日目(卒業論文発表)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)卒業論文発表(4)卒業論文の内容で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	取り組み、意欲・関心・態度				◎		30%
	発表内容		◎		○		30%
	論文の内容	○	◎				30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	保育相談支援						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	門田 雄一		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年生						
授業概要	保育所利用の保護者および地域の子育て中の親の種々の悩みに対して、相談支援のあり方を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					相談支援の在り方を学ぶ。	
	○					社会保障制度の概要を学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	保育相談支援の考え方を知る。					
	2	被相談者の態度等を学ぶ。(自己覚知)					
	3	保育相談支援の考え方を知る。(過程・方法を知る。)					
	4	保育相談支援の考え方を知る。(具体的対応方法を知る。)					
	5	日本の社会保障制度の概要を学ぶ。					
	6	ケース研究(保育所保護者の悩み)					
	7	ケース研究(社会福祉に関する悩み)					
	8	ケース研究(生活保護・高齢者福祉について)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(2)授業中の意欲・態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	態度・意欲				◎		20%
履修上の注意							

科目名	音楽表現Ⅲ					
科目名(英)	Music PerformanceⅢ					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)	
対象学科・学年	こども未来学科3年					
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読むようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める。3年生は更に、単位実習、採用試験、ピアノ発表会があるため、実習先からもらってくる曲や、採用試験曲を最優先に授業に臨む。後期は、採用試験、ピアノ発表会の曲を中心に授業を進める。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手スムーズな動き、10本の指のバラバラな動きのコントロール)
	○					声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、正しいリズム感等)
	○					ピアノ演奏における表現力の習得(強弱、スタッカート、レガート、マルカート、レジェロ等)
			○			ピアノ練習は集中力の持続、向上心の維持を目標とする
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・チャイルド社発行/子どもの歌100 ・音楽之友社/バイエル教則本・講師作成の楽譜(ファイル保管) 					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	後期授業ガイダンス			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	2	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	3	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	4	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	5	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	6	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	7	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	8	中間発表会			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	9	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	10	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	11	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	12	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	13	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	14	発表会曲の選定、採用試験曲の練習			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
15	ピアノ発表会			ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習		
評価方法	授業中の態度、意欲はすべて自分の演奏に反映するため、ピアノ発表会での演奏が自己の3年間の意欲の集大成である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	ピアノ発表会		○			
	授業の態度、意欲				○	
評価割合						70%
						30%
履修上の注意	ピアノの練習は、自分との闘いである。意欲を持って毎日練習することが必要。					

科目名	マナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	小川 智子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にて秘書及び研修講師		
対象学科・学年	こども未来学科3年生						
授業概要	保育者としての立ち居振る舞いについて考え、豊かな対人コミュニケーションの為の言葉遣いとマナーを身につける。実習先で誰からも好感・信頼感を持たれる実習生であるための、意識と知識の習得を目指す。社会人としての正しいマナー、慶弔の知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習生の品格について理解できる	
	○					電話対応や訪問時の正しい言葉遣いとマナーについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
	○					実習中の正しいマナーや報告、連絡、相談について理解し活用することが出来る	
			○			愛される保育者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション・就職活動マナー(面接・手紙)					
	2	社会人1年生の正しい言葉遣い					
	3	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ					
	4	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ、名刺のマナー					
	5	新社会人の宴会マナー(言葉遣いとマナー)					
	6	年賀状のマナー、接待(ご案内)のマナー、職場の人間関係					
	7	席次のマナー、年末年始のマナー					
	8	席次のマナー、まとめ、茶菓の接待					
	9	冠婚葬祭のマナー、慶弔マナーのまとめ					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ペン字Ⅱ－②						
科目名(英)	PenmanshipⅡ－②						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	書道講師36年		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、業務遂行時に実践できる応用力を習得する ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写する事により集中力をつける 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言語づかいで書写する事ができる	
		○				作文に於いて、自分の考えをまとめ、表現する事が出来る	
			○			書式に従って、美しい文字で書写する事が出来る	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写する事が出来る	
			○			集中力を持って取り組む事ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字の応用－大字練習・平仮名名前			マジックを用意しておく		
	2	ペン字の応用－小字練習・おたより帳			平仮名の復習をしておくこと		
	3	ペン字の応用－手紙・就職採用お礼状			小字、練習、復習をしておく		
	4	ペン字の応用－作文・就職試験演習			お礼状を清書しておく		
	5	ペン字の応用－作文			作文提出出来るようにしておく		
	6	実用書－年賀状			年賀状例を用意しておく		
	7	実用書－掲示物を書く			年賀状を提出出来るようにしておく		
	8	実用書－黒板の書き方			人前で行動できるようにしておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で実施する作文と実技課題(お礼状・年賀状) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品						80%
	小テスト						20%
履修上の注意	黒の水性ボールペン・黒マジックを用意 最終回は暑中見舞い用のはがきを用意 筆ペンやカーペンで年賀状を仕上げるつもりでいる事						

科目名	障害児保育Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	療育センターに2年間、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	幼稚園、保育園における障害児保育についての知識、理解を深める。関係機関との連携方法や保護者との連携、クラス運営における障害児に対する配慮等について学び、より実践的な知識を深めていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				障害児の保護者の気持ちを理解し、保育者としてどのように気持ちに寄り添うべきかを知る。	
	◎	◎				障害児に対する配慮に至るまでのプロセスを正しく理解する。	
	◎	◎	◎			保育現場で実践されている障害児保育について理解し説明できる。	
	◎	○				障害児療育におけるさまざまな方法論を知り、概要について説明できる	
		◎	○			子どもたちの日々の生活が、そのまま療育であるということを理解する。	
テキスト・教材 参考図書	必要に応じて指示する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス					
	2	広汎性発達障害(PDD)について					
	3	感覚統合理論(1)					
	4	感覚統合理論(2)					
	5	医療的ケアの必要な子どもたち					
	6	言葉の遅れと子どもたちの生活					
	7	保育園のケース検討					
	8	保育園のケース検討					
	9	幼稚園のケース検討					
	10	幼稚園のケース検討					
	11	あゆみらい保育園実習				実習に臨める服装等の準備	
	12	あゆみらい保育園実習				実習に臨める服装等の準備	
	13	あゆみらい保育園実習				実習に臨める服装等の準備	
	14	あゆみらい保育園実習				実習に臨める服装等の準備	
15	あゆみらい保育園振り返り						
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		◎		◎		40%
	発表	○	◎		◎	○	30%
	取り組み		◎		◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない者は単位の修得を認めない。						

科目名	保育実技Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	1・2年次に蓄積してきた知識や経験を保育現場での実践と結びつけ、より実践的な実技への学びと昇華していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		様々な保育の技法を知り、実践を通して理解を深める	
		○		○		様々な保育の意義、ねらいを理解し、その手法について学ぶ	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	感触遊びとは(講義)					
	2	感触遊びとは(実践)			実践に必要なものを準備		
	3	保育イラストの描き方について(講義)			実践に必要なものを準備		
	4	保育イラストの描き方について(実践)			実践に必要なものを準備		
	5	保育におけるプレゼント作りについて			実践に必要なものを準備		
	6	保育におけるプレゼント作りについて			実践に必要なものを準備		
	7	卒園製作について			実践に必要なものを準備		
	8	卒園製作について			実践に必要なものを準備		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②発表・作品 ③実践への取り組み以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		◎		◎		40%
	発表・作品		◎		◎	○	30%
	取り組み		○		◎		30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位は付与しない						

科目名	児童家庭福祉Ⅱ						
科目名(英)	Child and Family Welfare						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障がい児者施設指導員後大学教員		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	子ども家庭福祉で学んだ内容を規定にし進化させていく。子どもと家庭の支援のための各法律や制度に関する知識の獲得を目指す。子どもの幸福と親の幸福について身近な報道を参考に名ながら考える力を養う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				現代社会で子ども家庭にどのような課題が生じているか説明することができる。	
	○	○				児童福祉6法をはじめ各法律の目的を説明できる。	
	○	○		○		人口減少、小家族、ひとり親、貧困、子ども虐待について考え報告することができる。	
	○	○		○		外国籍の乳幼児の現状について報告することができる。	
			○			積極的に質問、発言することができる。	
テキスト・教材 参考図書	資料を配布する。「子どもの貧困白書」「シードブック 子ども家庭福祉第3版 浅井春夫編著 建帛社等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①当該科目で学ぶ内容、進め方について理解する。②現代社会の子ども家庭の課題について。					
	2	①日本の子ども虐待の深刻な現実と貧困②世界と日本の幸福度の比較				子ども虐待の通告件数は増加し、減ることがない子ども虐待殺人。加害者への支援としをどう考えるかレポートを提出する。	
	3	①貧困・格差のなかの子どもたちの現実②子どもの生活の仕組みと社会的背景					
	4	世界の子どものと日本の子ども(難民の子ども、戦争のなかの子どもなど)					
	5	子どもの人権—子どもの権利は守られているのか				コルチャック先生の生き方から何を学ばよいか考えレポートを次回提出する。	
	6	人口減少は何が問題となるのか					
	7	子ども家庭にとってのネットワークの必要性和困難				子ども家庭福祉の専門機関(専門職)の機能と役割についてレポート提出。	
	8	現代の保育問題と子育ての実際				働く保護者が子育てに迷う場面にはどのようなことがあるかレポート	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①レポート提出(4回)、②振り返り提出、発言。これらを踏まえて下記のように評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	4回レポート		◎		○		70%
	ふりかえり		◎				20%
	発言、宿題				◎		10%
履修上の注意							

科目名	保育・教職実践演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	これまでの講義で習得してきた知識や技術の総仕上げとして、演習を通して保育者としての実践力を高めることを目指す。また、現場で活躍する保育者や卒業生の講話など見聞する機会を設け、自分の保育観をつくる機会とする。履修中の授業のハブ科目としてより、深く研究したり実践を行う授業とする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎		○		幼稚園教諭・保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し説明できる。	
		◎				保育者として今の時点での自分の保育観を見出すことや考えることができる。	
				◎		保育者としてチームで研究を行ったり、制作を進めたりするための協調性を養うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オペレッタ練習① 小学校でのリハーサル				東住吉小学校体育館にて実施	
	2	オペレッタ練習① 小学校でのリハーサル				東住吉小学校体育館にて実施	
	3	オペレッタ練習① 小学校でのリハーサル				東住吉小学校体育館にて実施	
	4	オペレッタ本番 発表					
	5	オペレッタ本番 発表					
	6	オペレッタを通しての振り返り まとめ					
	7	オペレッタを通して見る保育における創作劇の重要性					
	8	卒業生に学ぶ～幼稚園教諭編～					
	9	卒業生に学ぶ～保育士編～					
	10	卒業生に学ぶ～学生のうちに学ぶべきこと～					
	11	卒業生に学ぶ～グループワーク～					
	12	保護者から学ぶ～父親の立場から見た園とは～					
	13	保護者から学ぶ～母親の立場から見た園とは～					
	14	保育者の想いを学ぶ～いろいろな職種に共通する想いととは～					
	15	保育者の想いを学ぶ～自分自身の想いを重ねて～					
評価方法	①授業態度②実践に対する取り組み③出席率を以下の観点から評価する。評価を行う成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席				○		30%
	実践に対する取り組み		○	○	○		30%
	意欲・関心・態度				○		40%
履修上の注意	5回以上の欠席は単位認定を認めない。						

科目名	一般教養Ⅲ-②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校教員21年		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	・保育に関する時事ニュースに興味関心を持ち、現場で何が問題となっているのか、今後現場がどのように変わっていくのかを考えていく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保育に関する時事ニュースを自ら関心を持ってみる事ができ、現場の現状を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保育に関する時事ニュース①					
	2	保育に関する時事ニュース②			気になるニュースを各自調べておく		
	3	保育に関する時事ニュース③			気になるニュースを各自調べておく		
	4	保育に関する時事ニュース④			気になるニュースを各自調べておく		
	5	保育に関する時事ニュース⑤			気になるニュースを各自調べておく		
	6	保育に関する時事ニュース⑥			気になるニュースを各自調べておく		
	7	保育に関する時事ニュース⑦			気になるニュースを各自調べておく		
	8	レポート作成					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	授業最終回に「保育現場が置かれている現状、働くうえで何を気を付けるべきか、今後の保育現場の展望」などをテーマにレポートを提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	自主実習演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自主実習を計画的に実施する						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		希望就職施設または企業から内定をもらう。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
評価方法	活動報告書がない場合は出席とみなさない。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		70%
	活動報告書	◎					30%
履修上の注意							

科目名	選択授業					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村仁美・下川武志	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設保育士・保育所保育士	
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	保育現場での特にクラス運営に関わる部分の保育者の仕事を理解し、就職後すぐにクラス担任として業務に携わっていけるようにするための知識、技術を習得する。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				保育における記録の重要性を理解しそれぞれの役割を知る。
	○	○				クラス作り作成の概要を知り、大まかな作成が出来るようになる。
		○	○	○		保育者として、社会人として必要な言葉遣い、態度を身につける。
テキスト・教材 参考図書	必要に応じて指示する。					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション				
	2	クラス便りに必要な要素について				
	3	クラス作り作成				作成に必要な道具等の準備
	4	クラス作り作成				作成に必要な道具等の準備
	5	園での電話対応について、クレーム対応について				
	6	要録、年間指導計画、月案、週案について				
	7	病気、ケガの応急処置について				
	8	連絡帳の書き方について				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	授業態度		○		◎	
	発表・提出物		◎		◎	○
	取り組み	○	○		◎	
履修上の注意	3回以上の欠席で単位取得は認めない。					

科目名	卒業論文Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中畔 政憲	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	3年間の学修に基づき、興味のあるテーマについて実践と理論を結び付け、エビデンスを基に科学的に論じる方法を学ぶ。単著とするか共著とするかは、学生が選択する。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○		○		証明したいことがらについて論理的に述べるができる。
	○	○		○		論文の中において、説得性のある資料提示ができる。
	○	○		○		論文の構成について構想することができる。
	○	○		○	○	共著とする場合、分担しながら協力して作業を進めることができる。
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	先行論文研究				
	2	先行論文研究				
	3	先行論文研究				
	4	先行論文研究				
	5	先行論文研究				
	6	先行論文研究				
	7	先行論文研究				
	8	先行論文研究				
	9	先行論文研究				
	10	論文の構想(単著にするか共著にするか)				
	11	先行論文研究				
	12	先行論文研究				
	13	先行論文研究				
	14	進捗状況報告				発表に向けてプレゼンテーションの準備をする。
	15	論文執筆開始				
	16	先行論文研究				
	17	論文執筆開始				
	18	論文執筆開始				
	19	論文執筆開始				
	20	論文執筆開始				
	21	論文執筆開始				
	22	仮査読				
	23	修正				
24	論文提出・発表会					
評価方法	評価は以下の通りとする。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	論文審査	◎	○		○	
	取り組む態度	○	○		◎	
プレゼンテーション力	○	◎		○		
評価割合						70%
						10%
						20%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと	
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと	
	3	就職活動指導③(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと	
	4	就職活動指導④(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	7	就職活動指導⑦(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	8	就職活動指導⑧(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	9	就職活動指導⑨(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	10	就職活動指導⑩(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	11	就職活動指導⑪(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	12	就職活動指導⑫(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと	
	13	就職活動指導⑬(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと	
	14	就職活動指導⑭(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと	
15	就職活動指導⑮(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと		
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位未取得となる						

科目名	自然体験基礎						
科目名(英)	Nature Experience Basic						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	様々な自然体験を通して、自然に対する知識、経験を得ることで、保育者になった際に子どもたちに対し適切な自然環境との関わりを持てるようになる基礎を培う。 また、事前学習、事後学習によって経験と知識の定着を図りより実践的な学びを行っていくことを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				幼児期に自然環境と関わることの重要性について理解し述べる事が出来る	
	○	○				自然環境、個人の能力差、体力差などに配慮し登山計画を立てることが出来る	
		○	○	○		様々な事象に配慮しながら安全に登山を行うことが出来る	
		○				火おこし、焼き芋の手順を正しく理解する	
	○	○	○			安全に配慮しながら火おこし、焼き芋を実践することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	ナツメ社版 どんぐりまつぼっくり落ち葉の工作BOOK						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自然体験、実体験の重要性について					
	2	調べ学習、登山計画作成					
	3	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	4	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	5	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	6	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	7	自然体験の重要性に対する考察まとめ					
	8	発表、プレゼンテーション				PP作成を仕上げておくこと	
	9	調べ学習(秋の自然物、焼き芋の焼き方等)					
	10	焼き芋実践(油山市民の森)				焼き芋に必要な用具、服装等の準備	
	11	焼き芋実践(油山市民の森)				焼き芋に必要な用具、服装等の準備	
	12	焼き芋実践(油山市民の森)				焼き芋に必要な用具、服装等の準備	
	13	焼き芋実践(油山市民の森)				焼き芋に必要な用具、服装等の準備	
	14	考察・まとめ、自然物を使用した製作				製作に必要な道具の準備	
15	自然物を使用した製作				製作に必要な道具の準備		
評価方法	①授業態度 ②発表、作品 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		30%
	発表、作品	○	◎				30%
	取り組み		○	◎	◎		40%
履修上の注意	登山、やきいもの実践はそれぞれ1日(4コマ)の活動とする						

科目名	交流ゼミⅢ－②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを構成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行っていく						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図る事ができる	
				○		物事の段取りを修正しながら臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行する事ができる	
				○		物怖じする事なく、積極的にレクリエーションに参加する事ができる	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営する事ができる	
				○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	3学年全体でのレクリエーション					
	2	3学年全体でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備					
	5	交流会への実践					
	6	交流会への実践					
	7	交流会への実践					
	8	交流会への実践					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢・態度が第一優先である。評価は出席状況にて「R」(履修)評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	姿勢・態度				◎		100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						